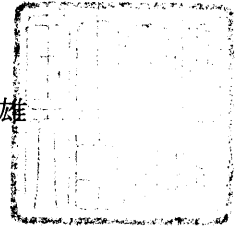


# 認 定 書

国住指第 2624 号  
平成 18 年 2 月 16 日

因幡電機産業株式会社  
代表取締役社長 守谷 承弘 様

国土交通大臣 北側 一雄



下記の構造方法又は建築材料については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第 129 条の 2 の 5 第 1 項第七号ハ〔防火区画貫通部 1 時間遮炎性能〕の規定に適合するものであることを認める。

## 記

1. 認定番号

PS060WL-0301

2. 認定をした構造方法又は建築材料の名称

ケーブル／炭酸カルシウム混入ポリオレフィン系耐熱性シール材充てん／壁耐火構造／貫通部分（中空壁を除く）

3. 認定をした構造方法又は建築材料の内容

別添のとおり

（注意） この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名

ケーブル/炭酸カルシウム混入ポリオレフィン系耐熱性シール材充てん/壁耐火構造/貫通部分（中空壁を除く）

2. 寸法および形状等

(寸法単位：mm)

| 項 目                                  | 申 請 構 造   |
|--------------------------------------|---|
| 開口部                                  | (形状) 円形<br>(面積) 0.0201 m <sup>2</sup> 以下 (φ160 以下)  |
| 占積率 (断面積)<br>(開口部に対するケーブル断面積の総合計の割合) | 18.35%以下 (0.003689 m <sup>2</sup> 以下)   |
| 貫通する壁の構造等                            | (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする<br>(1) A L C            厚さ 100 以上<br>(2) コンクリート   厚さ 100 以上<br>(中空壁を除く) |

3. 材料構成

1) 主構成材料

(寸法単位：mm)

| 申請構造 |            |  |
|------|------------|--|
| ケーブル | 総発熱量       | 137,621kJ/m 以下   |
|      | 総導体断面積     | 0.001164 m <sup>2</sup> 以下   |
|      | 規格<br>(種類) | 次の規格のうち、いずれか一仕様とする<br>JIS C 3307, 3312, 3317, 3342, 3401, 3501, 3502,<br>3605, 3606, 3605 準拠<br>JCS 第 224 号, 第 271 号 A, 第 364 号 A, 第 376 号 A,<br>第 381 号, 第 396 号, 第 396 号 A, 第 402 号,<br>第 416 号, 第 418 号 B, 第 419 号 A, 第 420 号,<br>第 421 号, 第 422 号, 第 423 号, 第 426 号,<br>第 427 号, 第 4426 号, 第 4427 号, 第 4396 号,<br>第 5420 号, 第 5421 号, 第 5422 号, 第 5423 号,<br>第 4419 号準拠, 第 4364 号準拠,<br>第 5381 号準拠<br>JCS C 第 68 号, 第 70 号, 第 71 号, 第 72 号, 第 74 号,<br>第 75 号, 第 76 号, 第 9074 号, 第 9075 号,<br>第 9076 号, 第 3271 号準拠, 第 9072 号準拠<br>TIA/EIA 568A<br>TIA/EIA 568A 準拠<br>平成 9 年消防庁告示第 10 号, 第 11 号 |
|      | 外径         | より合わせ外径：60 以下  |
|      | 導体断面積      | 250mm <sup>2</sup> /本以下  |
|      | 本数         | 総発熱量を各ケーブルの発熱量で除した数以下かつ総導体断面積を各ケーブルの導体断面積で除した数以下   |
|      | 導体種類       | (1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする<br>(1) 銅<br>(2) アルミニウム<br>(3) ガラス繊維  |
|      | 絶縁体        | (1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする<br>(1) ポリエチレン系樹脂<br>(2) 塩化ビニル系樹脂<br>(3) ゴム系樹脂  |
|      | シース        | (1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする<br>(1) ポリエチレン系樹脂<br>(2) 塩化ビニル系樹脂<br>(3) ゴム系樹脂  |

(寸法単位:mm)

| 項 目    |      | 申 請 構 造                                 |   |   |
|--------|------|---|---|---|
| 防火措置材料 | シール材 | 材質                                      | (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする<br>(1)炭酸カルシウム混入ポリオレフィン系耐熱性シール材(以下「耐熱性シール材」)<br>(2)炭酸カルシウム混入ポリオレフィン系熱膨張性シール材(以下「熱膨張性シール材」) |   |
|        |      | 比重                                      | 1.3以上   |   |
|        |      | 組成<br>(質量%)                             |   |   |
|        |      | 充てん量                                    | 厚さ：40以上   |   |
|        | 金具   | 本体                                      | 材質  | (1)～(6)のうち、いずれか一仕様とする<br>(1)溶融亜鉛めっき鋼板<br>・規格 JIS G 3302<br>(2)溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板<br>・規格 JIS G 3317<br>(3)クロムめっき鋼板<br>・規格 JIS G 7122<br>(4)ステンレス鋼板<br>・規格 JIS G 4305<br>(5)熱間圧延軟鋼板<br>・規格 JIS G 3131<br>(6)冷間圧延鋼板<br>・規格 JIS G 3141  |
|        |      |   | 厚さ  | 0.8以上   |
|        |      |   | 呼び径   | 150以下   |
|        |      |   | 高さ  | 40以上  |
|        |      | 底板                                      | 材質  | (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする<br>(1)あり<br>1)～6)のうち、いずれか一仕様とする<br>1)溶融亜鉛めっき鋼板<br>・規格 JIS G 3302<br>2)溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板<br>・規格 JIS G 3317<br>3)クロムめっき鋼板<br>・規格 JIS G 7122<br>4)ステンレス鋼板<br>・規格 JIS G 4305<br>5)熱間圧延軟鋼板<br>・規格 JIS G 3131<br>6)冷間圧延鋼板<br>・規格 JIS G 3141<br>(2)なし<br>(耐熱性シール材の場合のみ) |
|        |      |   | 厚さ  | 0.8以上   |
| 呼び径    |      |   | 150以下   |   |
| 取付けビス  |      | ・材 質 ステンレス製タッピングビス<br>・寸 法 φ4.0以上×Q25以上 |   |   |

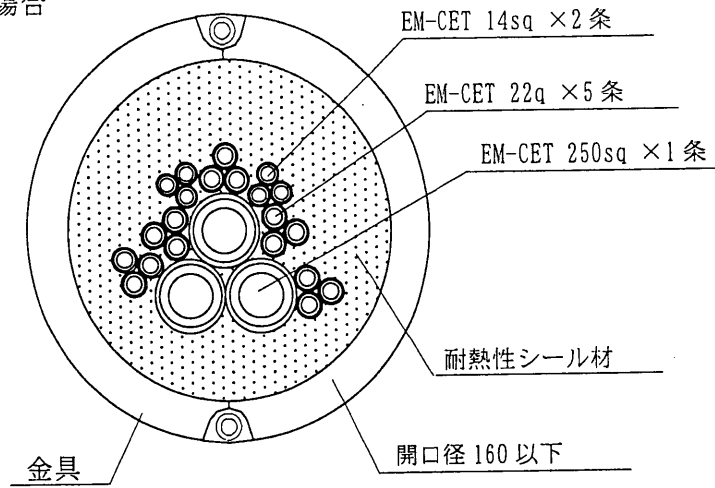
(別添-3)

#### 4. 構造説明図

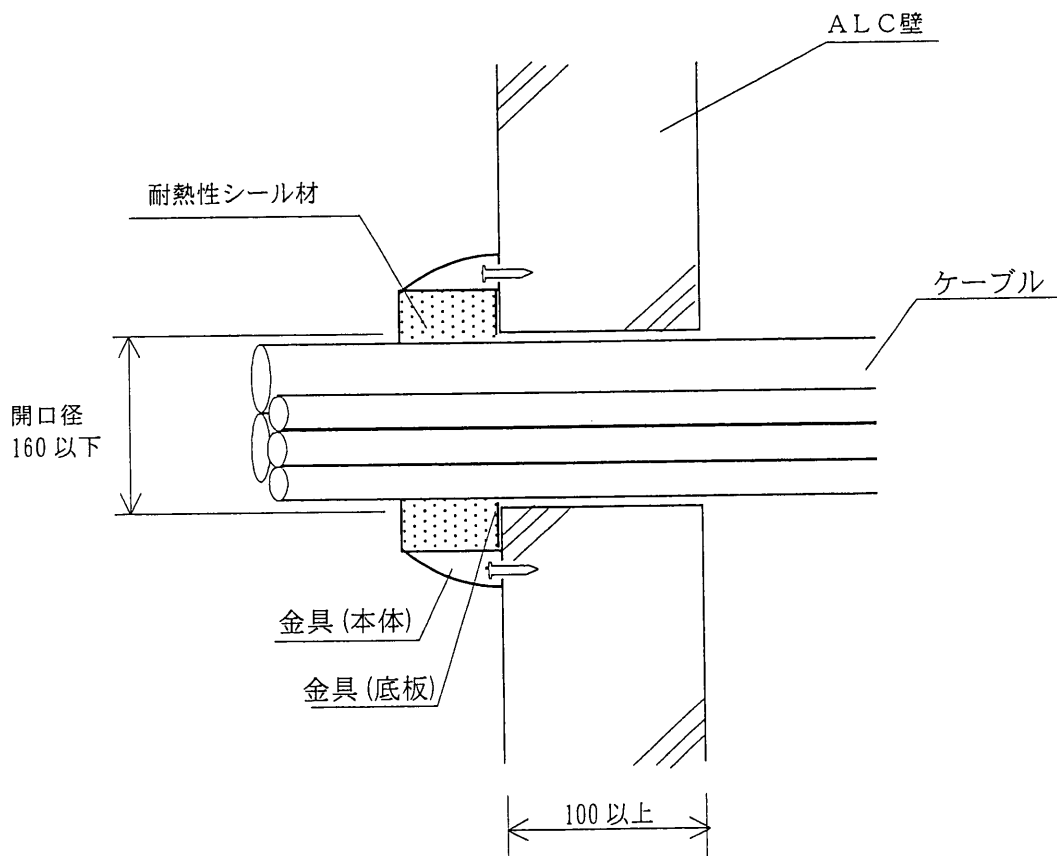
構造例を次に示す。

(寸法単位：mm)

金具(底板)あり，耐熱性シール材の場合



平面図

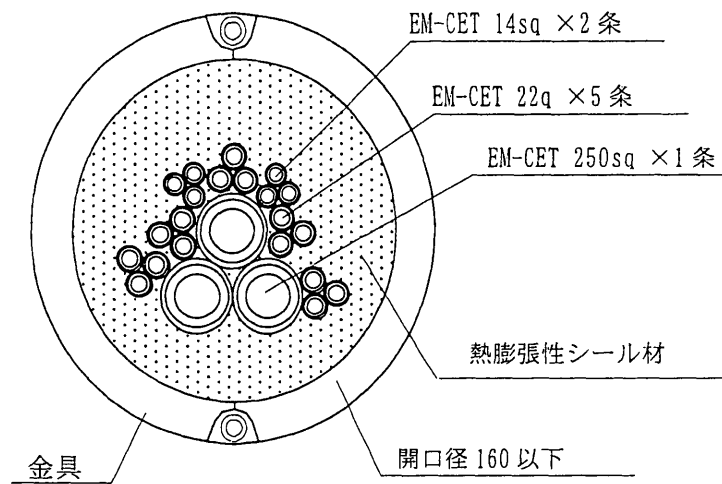


断面図

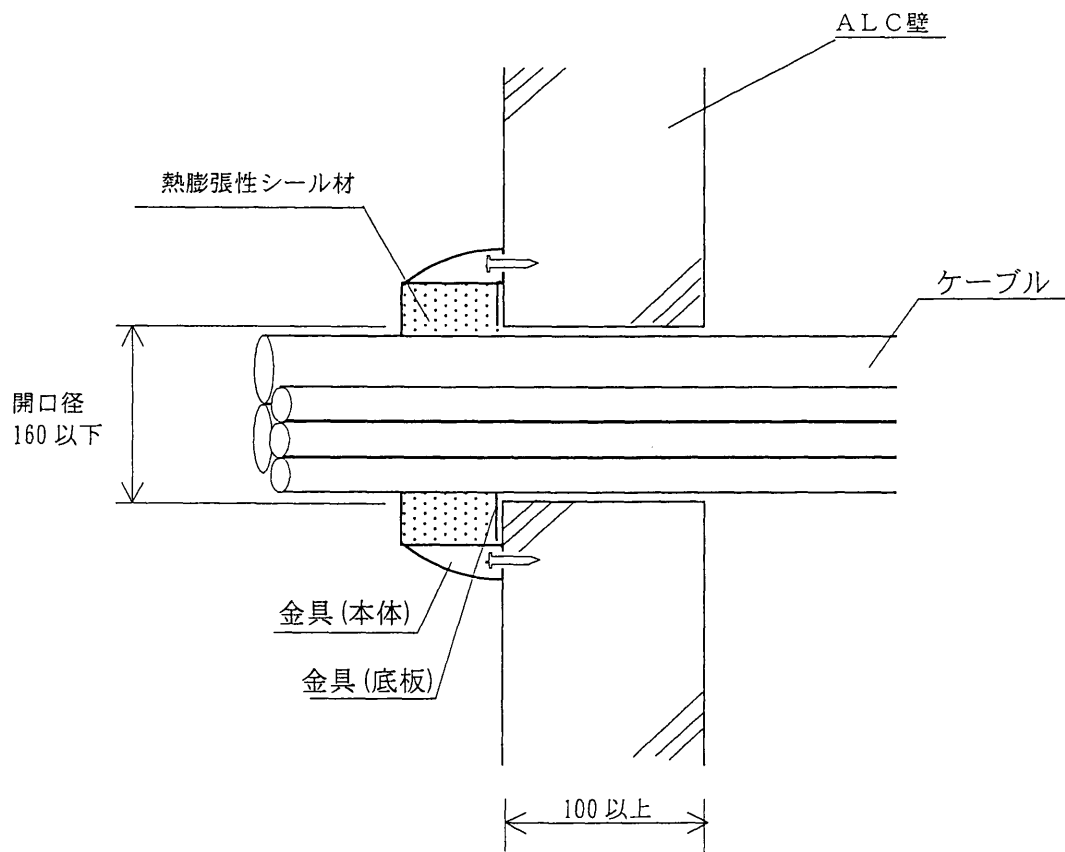
注) 寸法および材料構成は 2 および 3 のとおり

(別添-4)

熱膨張性シール材の場合



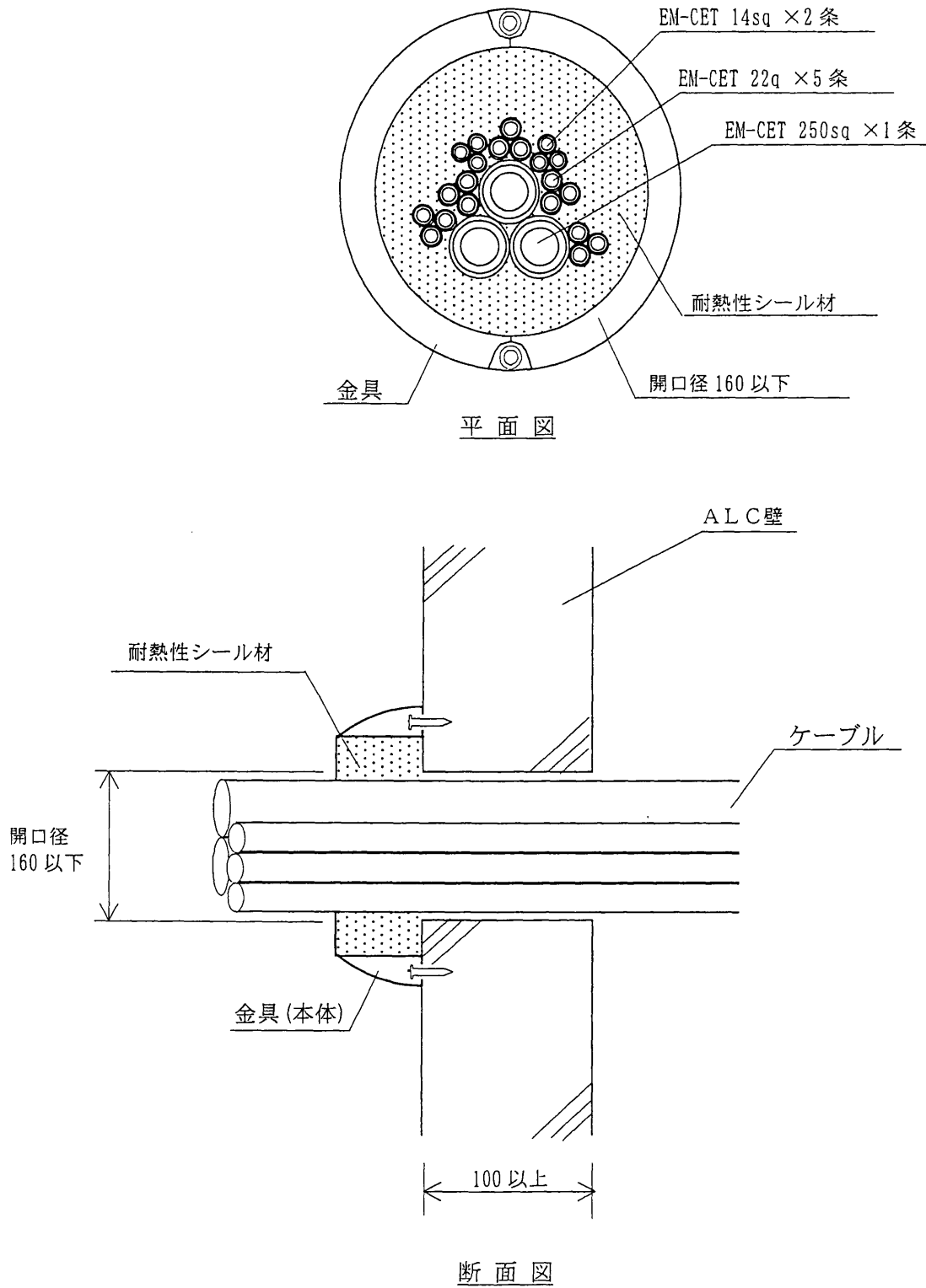
平面図



断面図

注) 寸法および材料構成は 2 および 3 のとおり

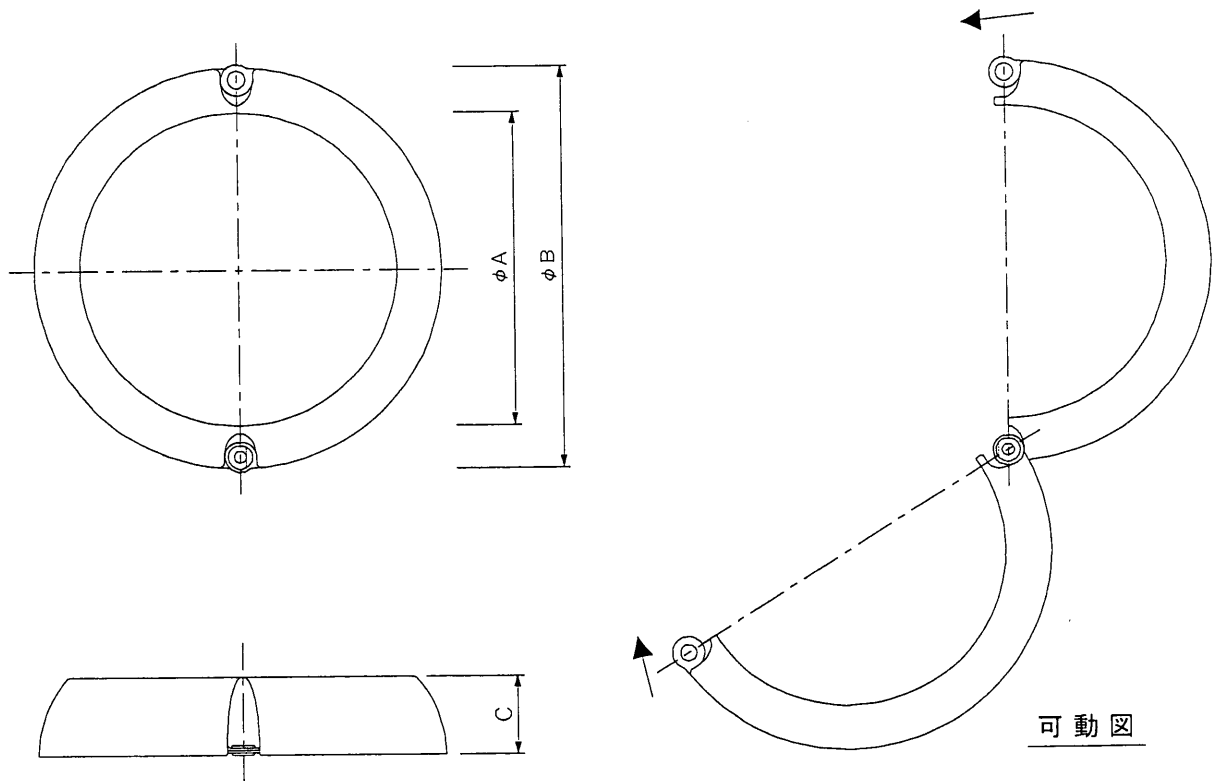
金具(底板)なし，耐熱性シール材の場合



注) 寸法および材料構成は 2 および 3 のとおり

〈金具本体の詳細構造図〉

(寸法単位：mm)



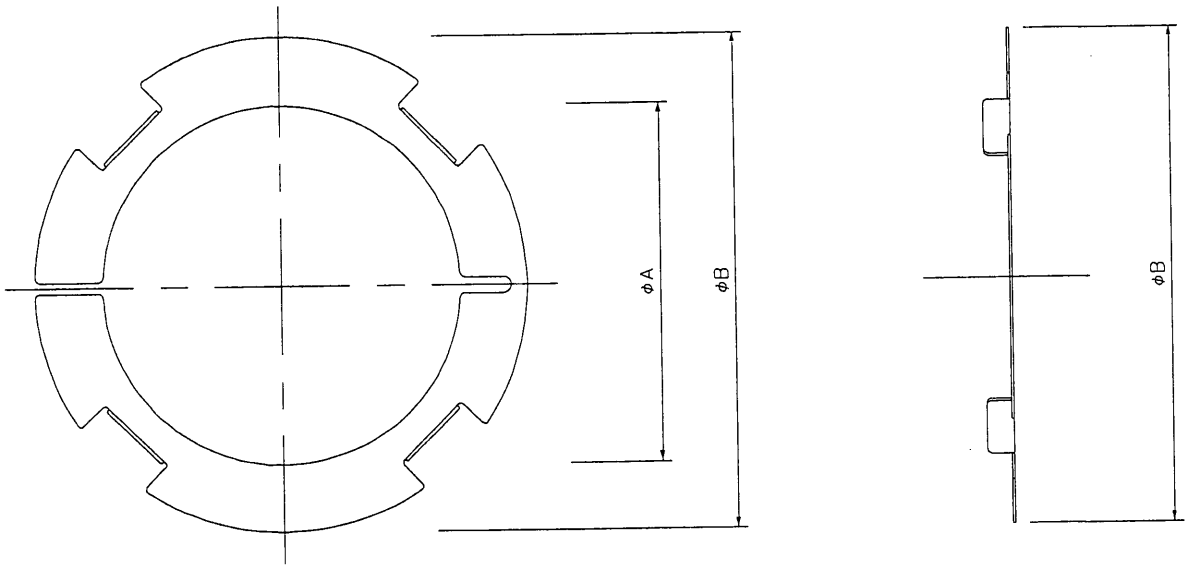
| 呼び径 | 適合開口径    | 金具内径<br>φ A | 金具外径<br>φ B | 金具高さ<br>C |
|-----|----------|-------------|-------------|-----------|
| 50  | φ 60 以下  | φ 57        | φ 102       | 40 以上     |
| 75  | φ 85 以下  | φ 82        | φ 127       |           |
| 100 | φ 110 以下 | φ 107       | φ 152       |           |
| 125 | φ 135 以下 | φ 133       | φ 178       |           |
| 150 | φ 160 以下 | φ 158       | φ 203       |           |

注) 寸法および材料構成は 2 および 3 のとおり



<金具(底板)の詳細構造図>

(寸法単位: mm)



| 呼び径 | 適合開口径    | 金具内径<br>φ A | 金具外径<br>φ B |
|-----|----------|-------------|-------------|
| 75  | φ 85 以下  | φ 45        | φ 92.5      |
| 100 | φ 110 以下 | φ 65        | φ 118       |
| 125 | φ 135 以下 | φ 85        | φ 143       |
| 150 | φ 160 以下 | φ 105       | φ 168       |

注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

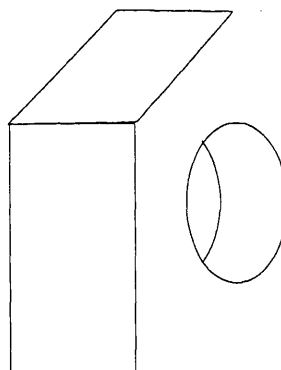
## 5. 施工方法等

(寸法単位：mm)

施工図（手順）を以下に示す。

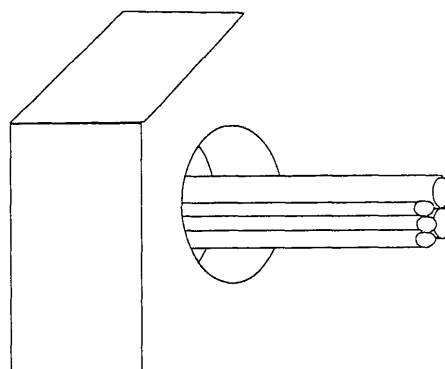
### ① 貫通孔を設ける

最大開口径を考慮し貫通穴を設ける。



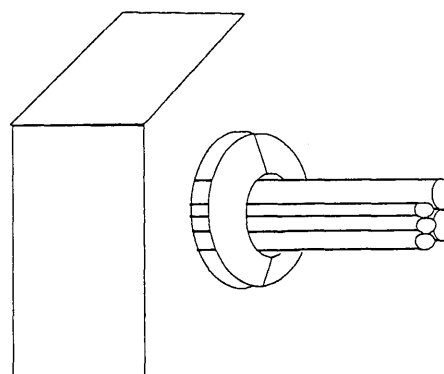
### ② ケーブルの配線

ケーブルを配線（通線）して支持・固定する。



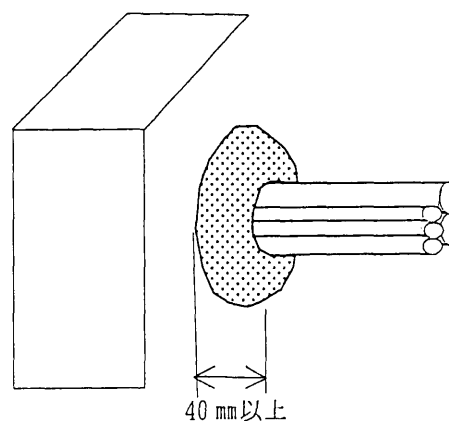
### ③ 金具（底板）の挿入

金具（底板）をケーブルに通す。  
壁に仮固定する。  
(耐熱性シール材使用時は底板無しでも良い。)



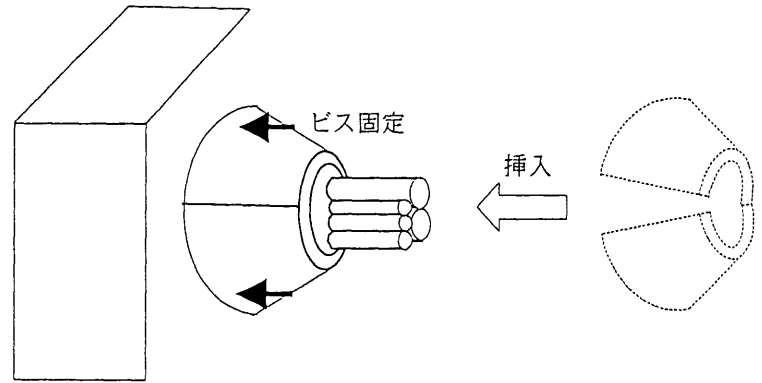
### ④ シール材の盛付け

シール材を壁面から 40 mm 以上の高さになるように盛付ける。



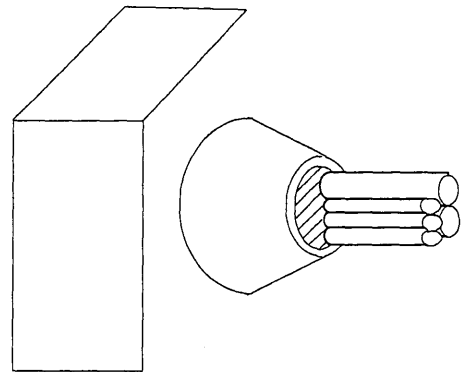
⑤ 金具(本体)の取付

金具(本体)でシール材を包み、  
壁に金具をビスで固定する。



⑥ 仕上げ

金具の内部に隙間が無いよう、また、面一に  
シール材を充てんする。



6. 注意事項

ケーブルは、火災時に過大な荷重がかかり、壁を損傷することがないように固定する。